

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-275858

(43) 公開日 平成9年(1997)10月28日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 K 87/08 87/00			A 0 1 K 87/00	6 3 0 D 6 3 0 N

審査請求 未請求 請求項の数13 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平8-95395

(22) 出願日 平成8年(1996)4月17日

(71) 出願人 000002439

株式会社シマノ

大阪府堺市老松町3丁77番地

(72) 発明者 保井 利彦

大阪府堺市老松町3丁77番地 株式会社シ  
マノ内

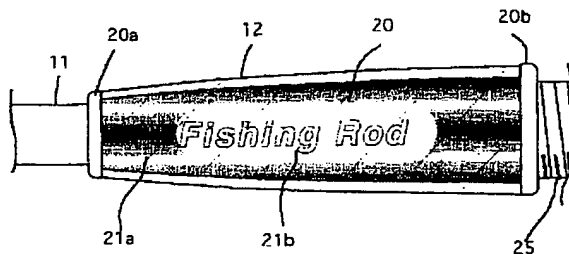
(74) 代理人 弁理士 小野 由己男 (6/1名)

(54) 【発明の名称】 釣り竿用グリップ及び釣り竿

(57) 【要約】

【課題】 商品イメージに合わせた色を自由に表現できるようにしかつ色のバラツキを抑えるようにする。

【解決手段】 釣り竿用の前グリップ12は、竿本体11に嵌め込まれた剛性を有する第1筒体20の外周面に一体で成形されたグリップであって、透光性を有する弾性体製のテーパ状の円筒の部材である。第1筒体20は所望の色に着色されており、かつ外周面にはグラデーション模様21aや文字模様21bが描かれている。この前グリップ12は透光性を有しているので、第1筒体20表面の着色された地肌の色や模様が外部から視認できる。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 剛性を有する筒体の外周面に配置される釣り竿用グリップであって、透光性を有する弾性体製の筒状部材を備えた釣り竿用グリップ。

【請求項 2】 前記筒体は着色されており、前記筒状部材は前記筒体の色を視認可能な程度の透光性を有している、請求項 1 に記載の釣り竿用グリップ。

【請求項 3】 前記筒体は文字及び／又は図形を含む模様を有しており、前記筒状部材は前記筒体の模様を視認可能な程度の透光性を有している、請求項 1 又は 2 に記載の釣り竿用グリップ。

【請求項 4】 前記筒体は、蓄光性又は蛍光性を有する塗料で塗装されている、請求項 1 から 3 のいずれかに記載の釣り竿用グリップ。

【請求項 5】 前記筒体は竿本体である、請求項 1 から 4 のいずれかに記載の釣り竿用グリップ。

【請求項 6】 前記筒状部材は前記筒体と一体成形されている、請求項 1 から 5 のいずれかに記載の釣り竿用グリップ。

【請求項 7】 前記筒状部材は前記筒体に嵌め込まれている、請求項 1 から 5 のいずれかに記載の釣り竿用グリップ。

【請求項 8】 前記筒状部材は、蓄光性又は蛍光性を有する顔料を添加した透光性を有する弾性体製である、請求項 1 から 7 のいずれかに記載の釣り竿用グリップ。

【請求項 9】 前記筒状部材は前記筒体と滑らかに連続している、請求項 1 から 8 のいずれかに記載の釣り竿用グリップ。

【請求項 10】 透光性を有する弾性体製の筒状のグリップと、前記グリップがその外周面に配置され、少なくとも前記グリップの配置部分が着色された筒状の竿本体と、を備えた釣り竿。

【請求項 11】 前記竿本体は、前記グリップの配置部分に文字及び／又は図形を含む模様を有している、請求項 10 に記載の釣り竿。

【請求項 12】 前記グリップは前記竿本体に一体成形されている、請求項 10 又は 11 に記載の釣り竿。

【請求項 13】 前記グリップは前記竿本体に嵌め込まれている、請求項 10 又は 11 に記載の釣り竿。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、外周面が着色された釣り竿及びそれに装着されるグリップに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 たとえば、船釣り用やソルトウォーター用の釣り竿には、手元竿に形成されたリールシートの竿先側や竿尻部の外周面にグリップが装着されている。この種のグリップは、一般に、炭素繊維強化樹脂等により

2

形成された竿本体の外周面にウレタンゴム等の着色された弾性体製の筒状部材を嵌め込むことにより形成されている。

【0003】 このような釣り竿に装着されたグリップに要求される機能としては、釣りをする上でのグリップ力と、心地良く握れる材料の感触と、デザイン上必要な色及び質感との 3 つがある。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 前記従来の弾性体製のグリップでは、前記 3 つの機能のうち前者の 2 つの機能を満足できる。すなわち、グリップ力や感触についての機能は満足できるレベルにある。しかしながら、種々の色を使い分けて用途に応じた商品イメージに合わせる場合、デザイン上必要な色及び質感が満足できるレベルではない。たとえば、ウレタンゴムの場合、通常、黒や灰色等の無彩色に着色することが多く、商品イメージに合わせて所望の色に着色することが困難である。そこで、グリップを成形する際に所望の色の顔料を添加して弾性体を着色することが考えられる。しかし、このように顔料を添加して着色しても、ベースの弾性体の色より薄い色に着色するのは困難である。また、顔料を添加して着色すると弾性体のロット単位で色のバラツキが生じやすく、ロット単位でグリップの色が微妙に変化しやすい。

【0005】 本発明の課題は、商品イメージに合わせた色を自由に表現できかつ色のバラツキが抑えられたグリップ及び釣り竿を提供することにある。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 発明 1 に係る釣り竿用グリップは、剛性を有する筒体の外周面に配置されるグリップであって、透光性を有する弾性体製の筒状部材を備えている。このグリップでは、筒状部材が透光性を有しているので、筒体表面の色が外部から視認できる。したがって、塗装または蒸着等の色のバラツキが生じにくい着色手段により筒体の表面を商品イメージに合わせた所望の色に着色することで、グリップを通して筒体表面の色が視認できる。この結果、グリップにおいて商品イメージに合わせた色を自由に表現できかつ色のバラツキが抑えられる。

【0007】 発明 2 に係る釣り竿用グリップは、発明 1 に記載のグリップにおいて、前記筒体は着色されており、前記筒状部材は筒体の色を視認可能な程度の透光性を有している。この場合には、筒体の色を確実に視認できるので、グリップにおいて商品イメージに合わせた色をよりの確に表現できる。発明 3 に係る釣り竿用グリップは、発明 1 又は 2 に記載のグリップにおいて、前記筒体は文字及び／又は図形を含む模様を有しており、前記筒状部材は筒体の模様を視認可能な程度の透光性を有している。この場合には、筒体の表面に形成された模様が視認できるので、グリップにおいて商品イメージに合わせた模様をも的確に表現できる。また、模様の上にグリ

ップが配置され模様がグリップで保護されることになるので、模様が消えたり欠けたりしにくい。

【0008】発明4に係る釣り竿用グリップは、発明1から3のいずれかに記載のグリップにおいて、前記筒体は、蓄光性又は蛍光性を有する塗料で塗装されている。この場合には、筒状部材に保護された筒体が発光するので夜釣り等に最適である。発明5に係る釣り竿用グリップは、発明1から4のいずれかに記載のグリップにおいて、前記筒体は竿本体である。この場合には、竿本体のグリップ配置部分を所望の色で着色することで、グリップにおいて商品イメージに合わせた色を的確に表現できる。

【0009】発明6に係る釣り竿用グリップは、発明1から5のいずれかに記載のグリップにおいて、前記筒状部材は筒体と一体成形されている。この場合には、グリップの製造工程が簡素化する。発明7に係る釣り竿用グリップは、発明1から5のいずれかに記載のグリップにおいて、前記筒状部材は筒体に嵌め込まれている。この場合には、グリップを別に成形した後嵌め込めばよいので、筒体とグリップとを種々組み合わせることで、バリエーションを簡単に増やすことができる。

【0010】発明8に係る釣り竿用グリップは、発明1から7のいずれかに記載のグリップにおいて、前記筒状部材は、蓄光性又は蛍光性を有する顔料を添加した透光性を有する弾性体製である。この場合には、筒状部材が発光するので、筒体の色が光って見え遠くから視認し易くなり夜釣り等に用いるのに好適である。発明9に係る釣り竿用グリップは、発明1から8のいずれかに記載のグリップにおいて、前記筒状部材は筒体と滑らかに連続している。この場合にはグリップと筒体との段差が目立たなくなり握ったときの感触がよくなる。

【0011】発明10に係る釣り竿は、グリップと竿本体とを有している。グリップは透光性を有する弾性体製の筒状のものである。竿本体は、グリップがその外周面に配置され、少なくともグリップの配置部分が着色された筒状のものである。この釣り竿では、グリップが透光性を有しているので、竿本体表面の色が外部から視認できる。したがって、塗装または蒸着等の色のバラツキが生じにくい着色手段により竿本体の表面を商品イメージに合わせた所望の色に着色することで、グリップを通して竿本体表面の色が視認できる。この結果、グリップにおいて商品イメージに合わせた色を表現できかつ色のバラツキが抑えられる。

【0012】発明11に係る釣り竿は、発明10に記載の竿において、前記竿本体は、グリップの配置部分に文字及び／又は図形を含む模様を有している。この場合には、竿本体の表面に形成された模様が視認できるので、グリップにおいて商品イメージに合わせた模様を的確

＊に表現できる。また、模様の上にグリップが配置され模様がグリップで保護されることになるので、模様が消えたり欠けたりしにくい。

【0013】発明12に係る釣り竿は、発明10又は11に記載の竿において、前記グリップは竿本体に一体成形されている。この場合には、グリップの製造工程が簡素化する。発明13に係る釣り竿は、発明10又は11に記載の竿において、前記グリップは竿本体に嵌め込まれている。この場合には、グリップを別に成形した後嵌め込めばよいので、筒体とグリップとを種々組み合わせることで、バリエーションを簡単に増やすことができる。

【0014】

【発明の実施の形態】図1において、本発明の一実施形態を採用した釣り竿の手元竿10は、竿本体11と、竿本体11の外周面に竿先側から順に配置された前グリップ12、リールシート13及び竿元グリップ14とを有している。竿本体11は、たとえば炭素繊維等の強化繊維に樹脂を含浸させたシート状プリプレグをマンドレルに巻回して成形された筒状のものであり、先端が細いテーパー形状である。竿本体11の表面はたとえば塗装により商品イメージに合わせて着色されている。

【0015】前グリップ12は、図2に示すように、透明又は半透明の透光性を有し、竿先側がやや小径の先細りテーパー状の円筒部材である。前グリップ12は、竿本体11の周面に嵌め込まれた硬質の第1筒体20と一体で成形されている。前グリップ12は、蓄光性又は蛍光性を有する顔料を添加した弾性体のペレットを射出成形や押し出し成形することで得られる。この弾性体としては、ウレタンゴム等のゴム系弾性体やアクティマー（商標）、レオストマー（商標）等のスチレンブロック共重合体系熱可塑性弾性体やサントブレン（商標）、ラバロン（商標）等の弾性体を用いることができる。弾性体として、スチレン系弾性体であるレオストマーに高温でのゴム弾性、耐油性を付与して一層の高機能化を実現した動的架橋熱可塑性弾性体であるアクティマーを用いると、グリップの耐久性や感触がとくに良好である。とくに、グリップに用いると水に濡れ手も滑りにくく、また経年変化してもべたつきにくく触った時の感触も良好である。

【0016】このアクティマーは、スチレンブロック共重合体系熱可塑性弾性体であるレオストマーと類似した分子構造を形成しているが、自由分子鎖に近いソフトセグメント中に動的架橋により高度に架橋された拘束相を有している。この動的架橋鎖は、ポリスチレン相と比較して熱的・化学的に安定であるため、アクティマーは、100℃以上の圧縮永久歪みや耐油・耐薬品性に優れている。このアクティマーの基本物性は下記の通りである。

硬さ	21~80HDA (15秒後値)	JIS K 7215による
比重	0.89	JIS K 7112による

5	6
引張強さ 13.1~35.7MPa	JIS K 6301による
耐寒性 -60℃以下	JIS K 6301による
引裂強さ 14~78N/mm	JIS K 6301による
反発弾性 59~30%	BS903による
圧縮永久歪み	JIS K 6282による
70℃×72時間 36~53%	
100℃×72時間 54~69%	
120℃×72時間 67~71%	
140℃×72時間 82~85%	
耐熱老化性	JIS K 6282による
136℃×168時間	
引張強さ保持率 122~92%	
100%モジュラス保持率 100~112%	
引張伸び保持率 102~92%	
硬さ変化 14.3~-1.1%	
重量変化 -3.3~-1.4%	

第1筒体20は、たとえばポリエチレンテレフタレート(PET)、ABS、66ナイロン等の樹脂を成形して得られた円筒状の部材であり、その両端に突出した鏝部20a、20bを有している。この鏝部20a、20bの周面は前グリップ12の周面と面一になっている。この第1筒体20も、先細りテーパ状になっている。第1筒体20の外周面は商品イメージに合わせて着色されており、そこには、図3に示すように、段階的に階調が変化するグラデュエーション模様21aやたとえば「Fishing Rod」という文字模様21bが所望の色で描かれている。これらの着色や模様は塗装による他、蒸着法やイオンプレーティング法(IP法)やシールテープの貼り付け等種々の方法で形成できる。また、樹脂のペレットに着色顔料を添加してもよい。

【0017】このように軟質の前グリップ12と硬質の第1筒体20とを組み合わせ、かつ表面を面一に形成することで、前グリップ12の径が竿本体11に対してかなり大きくなっても握ったときに剛性感があり力を入れやすくかつ握ったときの感触が良好になる。また、前グリップ12が透光性を有しているので、塗装や蒸着等の色のバラツキが生じにくい着色手段により筒体20の表面を商品イメージに合わせた所望の色に着色したり模様を描くと、前グリップ12を通して第1筒体20表面の色や模様が視認できる。この結果、前グリップ12において商品イメージに合わせた色や模様を自由に表現できかつ色のバラツキが抑えられる。

【0018】また、前グリップ12に蓄光性又は蛍光性を有する顔料が添加されているので、前グリップ12が夜間発光し、夜釣り等にも好適である。さらに、第1筒体20が前グリップ12で保護されることになるので、第1筒体20に描かれた模様や色が剥がれたり欠けたりしにくくなる。リールシート13は、図1に示すように、竿本体11の周面に嵌め込まれたねじ部25と、ねじ部25に螺合するナット26と、ナット26により進

退する前シート27と、ねじ部25の竿元側において、竿本体11に嵌め込まれた硬質の第2筒体28と、第2筒体28の外周面に第2筒体28の一部が露出するように嵌め込まれた軟質の中間グリップ29とを有している。

【0019】第2筒体28は、図4に示すように、円筒状の本体部40と、本体部40の上部において外方に突出する突起部41とを有している。本体部40の外周面は商品イメージに合わせて蓄光性又は蛍光性を有する塗料により着色されており、そこには、たとえば「Reel Seat」という文字模様40aが所望の色で描かれている。また、突起部41には、前シート27に対向して後シート42が形成されている。この前シート27と後シート42とにリールの取付脚を嵌め込みナット26を締め込むことでリールが竿体11に固定される。突起部41は、中間グリップ29の周面と面一になるように突出している。第2筒体28の本体部40の両側には、中間グリップ29を位置決めするための軸方向に延びる位置決め突起43が形成されている。

【0020】中間グリップ29は、前グリップ12と同様な弾性体製であり、透光性を有するものである。中間グリップ29は、図5に示すように両側部がやや膨らんだ筒状の部材であり、第2筒体28の突起部41が露出する部分に突起部41と面一になるような厚みの開口29aを有している。また、内周面には位置決め突起43に係止される位置決め溝44が形成されている。このように、蓄光性又は蛍光性を有する塗料で着色された第2筒体28の外周面に透光性を有する中間グリップ29を嵌め込むことで、塗料や模様を保護できるとともに、夜間において発光し、夜間における視認性が向上する。

【0021】竿元グリップ14は、竿本体11の竿尻に嵌め込まれ、透明接着剤で接着された蓋付円筒部材である。竿元グリップ14は、前グリップ12と同様な弾性体製であり、透光性を有する部材である。このグリップ

14の弾性体にも蓄光又は蛍光顔料が添加されている。竿本体11の竿尻側には、図6に示すように、グラデュエーション模様11a、三角形の図形模様11b、11c及びたとえば「GRIP」という文字模様11d等の模様が所望の色で描かれている。これらの模様は塗装による他、蒸着法やIP法やシールテープの貼り付け等種々の方法で形成できる。

【0022】このような実施形態では、3つのグリップ12、29、14が透光性を有する弾性体製であるため、グリップの内部が透けて見え、グリップが装着された筒体の色や模様が外部から視認できる。このため、色や模様を保護でき、かつ商品イメージに合わせて自由に色を表現できるとともに、透けてみえるため深みがあるデザインになり質感が向上する。

【0023】また、筒体とグリップとの2つの異なる部材を組み合わせているので、種々のバリエーションを容易に得ることができる。

【他の実施形態】

(a) 各グリップを筒体に描かれた色や模様が見える程度に着色してもよい。この場合、筒体の色とグリップ20の色との混色を実現できる。

(b) 筒体は竿元グリップのように竿本体自体でもよく、前グリップや中間グリップのように竿本体と別体でもよい。

(c) グリップの材質は前述した弾性体に限定されず、透明又は半透明の透光性を有する弾性体であればどのようなものでもよい。

(d) グリップの形状は円筒に限定されず、筒体が貫通する孔を有する筒状部材であればどのような形状でもよ

い。

【0024】

【発明の効果】本発明によれば、筒状部材が透光性を有しているので、筒体表面の色が外部から視認できる。したがって、塗装または蒸着等の色のバラツキが生じにくい着色手段により筒体の表面を商品イメージに合わせた所望の色に着色することで、グリップを通して筒体表面の色が視認できる。この結果、グリップにおいて商品イメージに合わせた色を自由に表現できかつ色のバラツキが抑えられる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態が採用された手元竿の側面部分図。

【図2】前グリップの断面側面図。

【図3】前グリップの側面図。

【図4】リールシートの側面部分図。

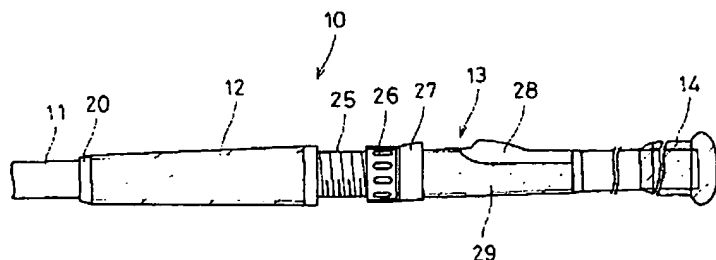
【図5】図4のV-V断面図。

【図6】竿尻部の側面図。

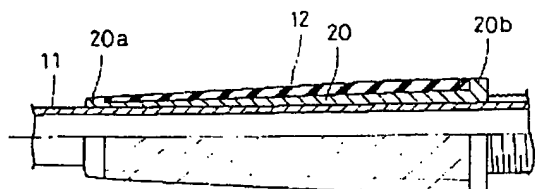
【符号の説明】

- 11 竿本体
- 11a、21a グラデュエーション模様
- 11b、11c 図形模様
- 11d、21b、40a 文字模様
- 12 前グリップ
- 14 竿元グリップ
- 20 第1筒体
- 28 第2筒体
- 29 中間グリップ

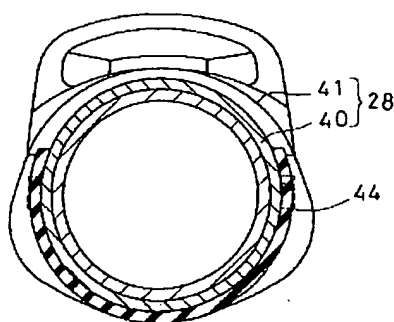
【図1】



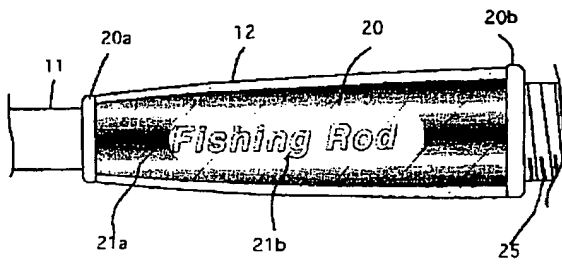
【図2】



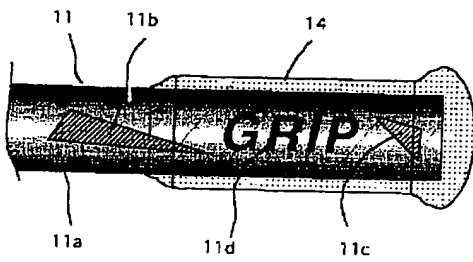
【図5】



【図3】



【図6】



【図4】

